

# 利休の茶

記録  
35ミリ  
カラー／47分  
日・英・葡・西・仏・  
独・伊・アラビア・タ  
イ・インドネシア語版

■自主企画

■監修  
表千家 千 宗左  
裏千家 千 宗室  
武者小路千家 千 宗守

■協力  
国際交流基金

■企画  
『利休の茶』製作委  
員会

〔代表〕東京国立博  
物館次長 林屋晴三  
京都工芸繊維大学教  
授 中村昌生  
国際日本文化センタ  
ー教授 村井康彦  
表千家 久田宗也  
裏千家 筒井紘一  
武者小路千家

木津宗隆  
桜映画社 村山英治

■撮影協力  
堀内宗完／木津宗隆  
／金澤宗也／藪内家  
／永青文庫 MOA  
美術館／五島美術館  
／慈照寺／静嘉堂文  
庫／大徳寺／東京国  
立博物館／南宗寺／  
徳川黎明会／根津美  
術館／野村文華財団  
／畠山記念館／藤田  
美術館／三井文庫／  
湯木美術館 他

スタッフ

■製作 村山英治  
福岡順子

■脚本 村山英治  
村山正実  
村山正実

■演出 西山東男

■撮影 藤来義門  
沼崎梅子

■照明 甲藤 勇

■編集 間宮芳生

■録音 中村吉右衛門  
■音楽 小松茂美  
■語り 小松茂美

文部省選定 日本映画ペンクラブ推薦 第43回毎日映画コンクール  
教育文化映画賞 1989年教育映画祭優秀作品賞 1988年キネマ旬報  
文化映画ベスト・テン第3位

自由闊達な精神に溢れた桃山時代に、日本独特の生活芸術、茶の湯  
を完成したのは千利休であった。この映画は、映像として初めて本  
格的な資料に基づいて、利休の茶の世界へ、主に造形の面から迫ろ  
うとしたものである。1991年は、利休の没後400年に当たる。



千利休は、大永2年（1522）堺の海産物を商う納屋衆の家に生まれ  
た。鎌倉時代、栄西禪師によって禅と共に中国からもたらされた喫  
茶の風習は、室町時代に格式を重ねる書院の茶となった。それま  
で省みられなかった冷え枯れた美を取り上げて、侘び茶の祖と仰が  
れたのが村田珠光で、珠光の侘び茶をさらに一步深めたのは堺の町  
衆、武野紹鷗であった。利休はこの紹鷗の門を叩いた。初め信長に、  
続いて秀吉に茶頭として召し抱えられた利休は、四畳半茶室から三  
畳、さらに二畳の草庵茶室「待庵」を作った。秀吉は大坂城を完成  
したが、その絢爛豪華さは利休の侘びの草庵茶室と対極をなすもの  
だった。黄金の茶室や北野大茶湯は秀吉の権力を象徴するもので、  
利休自身は、晩年侘びの茶の湯への道を深めていく。

現在、利休の茶は、利休が所持していた茶道具（茶碗、茶入、水  
指、花入、軸物等）からその侘びの美意識を窺うことができる。小  
間の草庵茶室を作り、茶室に至る露地を構成した利休は、日本独自  
の美を表す茶道具を次々に見出し、あるいは創造して侘びの茶の湯  
を完成させた。映画は、晩年の秀吉との精神的な葛藤と悲劇的な死  
をクライマックスにしている。利休の死後、利休が生涯をかけて完  
成した侘びの茶の心と形は、茶の湯の理想として受け継がれ、日本  
文化の真髄として今も生きている。